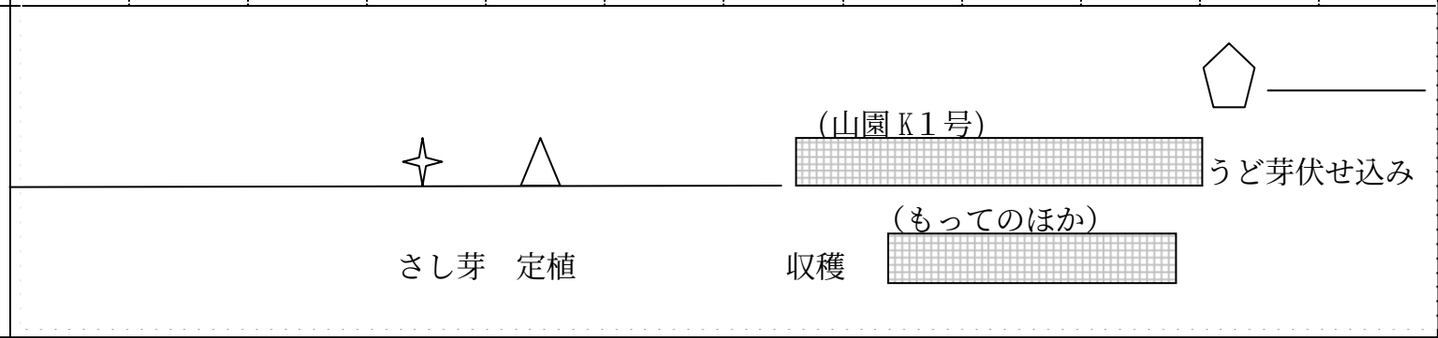
品目： 食用菊（山園 K1 号・早生もって・もってのほか）　　ハウス栽培

平成 22 年度版

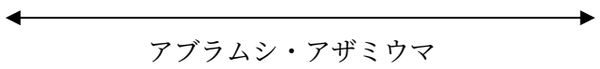
月旬	1 上中下	2 上中下	3 上中下	4 上中下	5 上中下	6 上中下	7 上中下	8 上中下	9 上中下	10 上中下	11 上中下	12 上中下

目標収量：ハウス　1,200ｋｇ（5a）
秀品：８０％以上

栽培体系



病害



施肥例

採穂床（1a）		本畑（ハウス 5a）	
堆肥	300kg	堆肥	1,000kg
苦土石灰	10kg	苦土石灰	50kg
苦土重焼燐	4kg	苦土重焼燐	20kg
ニューフラワー	15kg	ニューフラワー	8kg

栽培上のポイント

1．育苗

① 採穂床

１１月に１０㎝×１０㎝ 間隔に冬至芽を植付け、越冬させる。

冬至芽は長さ１０～１５ｃｍで太さの揃っていて、発根しているもので病害のないものを選ぶ。1月下旬からトンネルを保温し、新芽の発生を促す。

② さし芽・苗床管理

〇さし穂は茎の太い充実したものを選ぶ。　３月中～下旬に新芽の先を６～９㎝ の長さに摘み取り、展開葉３枚をつけて下葉をかき取り、切口を１時間程度水上げする。　さし穂基部に発根剤を紛衣して、さし床またはセルトレーにさす。さし床は電熱温床を利用して、地温は １１８～２０℃を目標に管理し、最低でも１６℃は確保する。

〇トンネル密閉とし、さし芽後１週間程度は、昼晴天時の６０～７０％遮光資材で遮光するが、朝夕はできるだけ日光にあてるようにする。　さし芽後２０～２５日で定植が可能となる。

2．定植

夏秋ぎくでは、できるだけ高畝にし、畝巾１８０ｃｍ、株間６０～８０ｃｍの１条植えとする。なお、山園 K-1 号は草姿がコンパクトなので株間は４０ｃｍ～６０ｃｍとする。

3．追肥・かん水

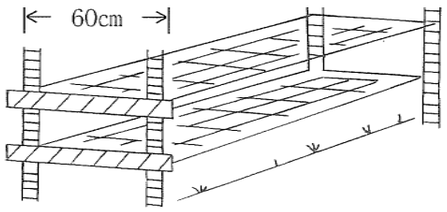
頂花出らい期から２０日間隔で１回量Ｎ１～２kg/10a を開花盛期まで追肥する。

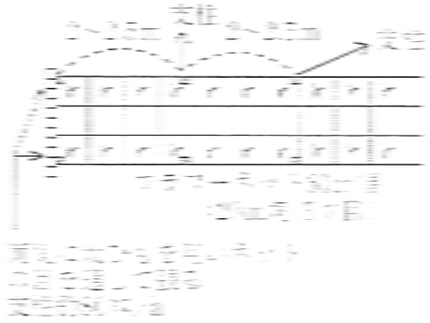
きくは浅根性なので、干ばつを受けやすく、土壌の乾燥具合を見ながらかん水する。

また、乾燥時の追肥は液肥で行う。

4．ネット張り

早めに２段張りを行い、２m間隔に支柱を立てる。生育に合わせてネットを上げる。





5．病害虫防除

アブラムシ・アザミウマ・白さび病・花腐病に注意する。

特にアザミウマではウイルスを媒介するので、発生初期から防除に努める。

6．収穫・調整

十分に咲いたものを摘み取り、花腐れ等病害虫の無いものを１００ｇパック詰めして出荷する。

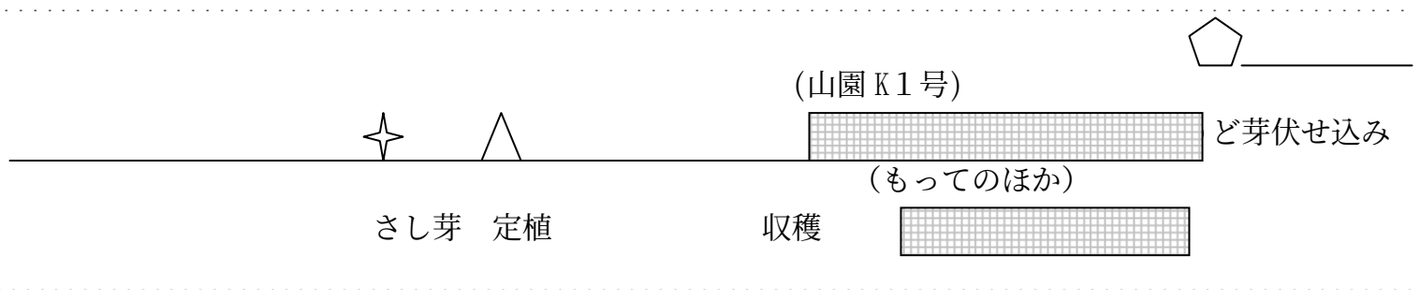
品目：　　食用菊　　栽培暦　　支店　　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

平成　　年　　月　　日

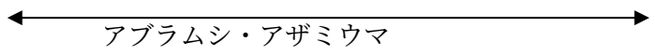
月旬	1 上中下	2 上中下	3 上中下	4 上中下	5 上中下	6 上中下	7 上中下	8 上中下	9 上中下	10 上中下	11 上中下	12 上中下

目標収量：ハウス　1,200ｋｇ（5a）
秀品：８０％以上

栽培体系



病害



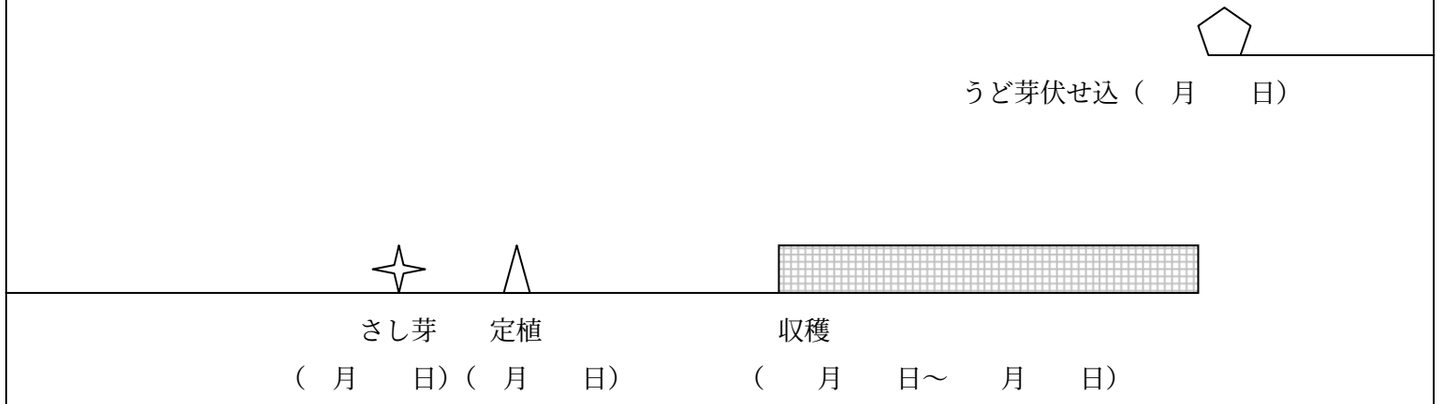
施肥例

採穂床（1a）		本畑（ハウス 5a）	
堆肥	300kg	堆肥	1,000kg
苦土石灰	10kg	苦土石灰	50kg
苦土重焼燐	4kg	苦土重焼燐	20kg
ニューフラワー	15kg	ニューフラワー	8kg

＜10a 当り＞

月旬	1 上中下	2 上中下	3 上中下	4 上中下	5 上中下	6 上中下	7 上中下	8 上中下	9 上中下	10 上中下	11 上中下	12 上中下

栽培暦



品種名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

面　積：＿＿＿＿a

うね幅：＿＿＿＿cm

株　間：＿＿＿＿cm

条　間：＿＿＿＿cm（＿＿＿条）

栽植本数：＿＿＿＿本

ネット張り：
＿＿月　　日～　月　　日

	肥料名	現物数量
全量基肥		
追肥		